PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11)Publication number:

02-178669

(43) Date of publication of application: 11.07.1990

(51)Int.CI.

G03G 5/06 CO9B 57/00

(21)Application number: 63-333748

(22)Date of filing:

28.12.1988

(71)Applicant : RICOH CO LTD

(72)Inventor: SHIMADA TOMOYUKI

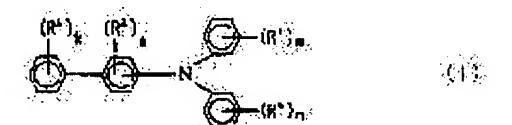
SASAKI MASAOMI **ARIGA TAMOTSU**

(54) ELECTROPHOTOGRAPHIC SENSITIVE BODY

(57)Abstract:

PURPOSE: To sufficiently satisfy various requirements in electrophotographic processes by forming a photosensitive layer containing at least one of specified aminobiphenyl compounds as an effective component on a conductive substrate.

CONSTITUTION: The photosensitive layer formed on the conductive substrate contains as the effective component at least one of the aminobiphenyl compounds represented by formula I in which each of R1, R3, and R4 is H, amino, dialkylamino, alkoxy, thioalkoxy, aryloxy, methylenedioxy, optionally substituted alkyl, or halogen; R2 is H, alkoxy, aryloxy, optionally substituted alkyl, or halogen; each of k, l, m, and n is an integer of 1 - 4, and when each is 2, 3, or 4, each of R1 - R4 is optionally same or different, thus permitting the obtained photosensitive body to be superior in photosensitive characteristics, high in strength against thermal shock and mechanical impact, and to sufficiently satisfy various requirements for the photosensitive body.



LEGAL STATUS

[Date of request for examination]

[Date of sending the examiner's decision of rejection]

[Kind of final disposal of application other than the examiner's decision of rejection or application converted registration]

[Date of final disposal for application]

[Patent number]

[Date of registration]

[Number of appeal against examiner's decision of rejection]

[Date of requesting appeal against examiner's decision of rejection]

BEST AVAILABLE COPY

LEST AVAILABLE COPY

⑫公開特許公報(A) 平2-178669

Sint. Cl. 5

識別記号

庁内整理番号

國公開 平成 2年(1990) 7月11日

G 03 G 5/06 C 09 B 57/00

3 1 2 Z 6906-2H 7537 - 4H

審査請求 未請求 請求項の数 3 (全10頁)

◎発明の名称 電子写真用感光体

> 顧 昭63-333748 ②特

昭63(1988)12月28日 22出

島田 四発

知幸

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内 東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

⑫発 明 者 佐々木

正臣

饱発 明 者 有 賀 保

東京都大田区中馬込1丁目3番6号 株式会社リコー内

创出 願 人 株式会社リコー 東京都大田区中馬込1丁目3番6号

弁理士 池浦 倒代 理人 敏明 外1名

叨

1. 発明の名称

電子写真用感光体

- 2. 特許請求の範囲
- (1) 薄電性支持体上に下記一般式(1)で扱わされ るアミノビフェニル化合物の少くとも1種を有効 成分として含有する磁光層を有することを特徴と する似乎写真用處光体。

$$(R^{4})_{k} (R^{2})_{\underline{a}}$$

$$(1)$$

$$(R^{4})_{n}$$

(式中、R1、R1及びR1は水影原子、アミノ塩、 ジアルキルアミノお、アルコキシな、チオアル コキシ基、アリールオキシ基、メチレンジオキ シ基、置換もしくは無置換のアルキル基、ハロ ゲン原子を、R[®]は水漿原子、アルコキシ菇、置 換もしくは無置換のアルキル結又はハロゲンを **扱わす。またk、 4 、 m及びnは1、2、3又は4の** 整数であり、各々が2、3又は4の整数の時は前

和R'、R'、R'及びR'は同一でも異なっていても よい.)

(2) 前記一般式(1-)で汲わされるアミノビフェニ ル化合物が下記一般式(Ⅱ)で扱わされる2-アミノ ビフェニル化合物である特許請求の範囲第1項記 報の電子写真用感光体。

$$(R^{2})_{n}$$

$$(R^{4})_{n}$$

$$(R^{2})_{k}$$

$$(R^{2})_{a}$$

$$(R^{4})_{n}$$

(R*,R2,R2,R3,k,2,m及びnは前記と同じ)

(3) 前記一般式(1)で扱わされるアミノビフェニ ル化合物が、下記一般式(m)で扱わされる3-アミ ノビフェニル化合物である特許請求の範囲第1項 記載の電子写真用態光体.

$$(R^2)_{\mathfrak{m}}$$

$$(R^3)_{\mathfrak{m}}$$

$$(R^3)_{\mathfrak{m}}$$

$$(R^3)_{\mathfrak{m}}$$

(R¹,R³,R³,R⁴,k,2.■及びnは前記と同じ)

3. 発明の詳細な説明

〔枝術分野〕

本発明は電子写真用感光体に関し、詳しくは感光的中に特定の化合物を含有させた電子写真用感光体に関する。

[從来技術]

従来、低子写真方式において使用される必光体の光導電性素材として用いられているものにセレン、硫化カドミウム、酸化重鉛などの無機物質がある。ここにいう「電子写真方式」とは、一般に、光導電性の感光体をまず暗所で、例えばコロナ放のまって帯電せしめ、次いで像露光し、解光がのみの電がを選択的に逸散せしめて静電光が、のでの音を染料、顔料などの着色材と高分子物質などの結合剤とから構成される検電検粒子(トナー)で現像し可視化して画像を形成するようにした画像形成法の一つである。

このような電子写真法において感光体に要求される基本的な特性としては、(1) 暗所で適当な電

トロフルオレン-9-オンとからなる曝光体(米国特 許第3484237号明細書に記載)、ポリ-N-ピニルカ ルパソールをピリリウム塩系色素で均越してなる 超光体(特公昭48-25658号公報に記載)、有機類料 を主成分とする感光体(特別昭47-37543号公報に 記載)、染料と樹脂とからなる共品館体を主成分 とする磁光体(特開昭47-10735号公報に記載)、ト リフェニルアミン化合物を色素増感してなる感光 佐(米国特許第3.180.730号)、ポリ-N-ピニルカル パソールとアミン誘導体を電荷輸送材料として用 いる磁光体(特開町58-1155号公報)などである. これらの感光体は優れた特性を有しており実用的 にも価値が高いと思われるものであるが、電子写 真法において、他光体に対するいろいろな要求を 考慮すると、まだ、これらの要求を十分に消促す るものが付られていないのが実状である。また米 国特許第3,265,496号、特公昭39-11546号公報、 特開昭53-27033号公報に記載されている多官能第 3アミン化合物、なかでもペンジジン系化合物が 毽子写真感光体用の光薄電材料として優れている

位に帯電できること、(2)暗所において電荷の逸 版が少ないこと、(3)光照射によって速やかに復 荷を逸散せしめうることなどがあげられる。

ところで、前記の無機物質はそれぞれが多くの 長所をもっていると同時に、さまざまな欠点をも 有しているのが実状である。例えば、現在広く用 いられているセレンは前記(1)~(3)の条件は十分 に満足するが、製造する条件がむずかしく、現造 コストがあくなり、可挽性がなく、ベルト状にの ないながなずかしく、無や機械的の欠点もの ないに発生がながながながながの欠点ものが、 ななため取扱いに発生がながの欠点ものの ないたができない。 がないにといるといるができない。 ところで、前記の無いないの がながながながながながながの ないに発生して用いられているの がいたがながながながながなが、 がななができない。

近年、これら無機物質の欠点を排除するためにいるいろな有機物質を用いた電子写真用感光体が 提案され、実用に供されているものもある。例え ば、ポリ-N-ピニルカルバソールと2,4,7-トリニ

ことが知られているが、これらの化合物は接着樹脂への溶解度が低く磁光刷中で結晶化する問題がある。これを改良する為に例えば特開昭62-11216 4号公報では他の低分子化合物と併用することにより結晶化をおさえる試みがなされている。

(月 的)

本発明の目的は、先に述べた従来の感光体のもつ種々の欠点を解消し、世子写真法において要求される条件を十分満足しうる感光体を提供することにある。更に、本発明の他の目的は、製造が容易でかつ比較的安価に行なえ、耐久性にもすぐれた電子写真用感光体を提供することにある。

〔梼 成〕

本発明によれば、薄徴性支持体上に下記一般式(1)で表わされるアミノビフェニル化合物の少くとも1種を有効成分として含有する感光層を有することを特徴とする電子写真用感光体が提供される。

$$(R^{s})_{k} (R^{s})_{s} (R^{r})_{n}$$

$$(1)$$

(式中、R¹、R²及びR²は水素原子、アミノ基、ジャルキルアミノ基、アルコキシ基、チオアルコキシ基、アリールオキシ基、メチレンジオキシ 技、置機もしくは無置機のアルキル基、ハロゲンを、R²は水素原子、アルコキシ基、 置機もしくは無置機のアルキル
は、アルコキシ
は、アルコキシ
ない。3又は4の整数の時は前記
R¹、R²、R³及びR²は同一でも異なっていてもよい。)

本発明において越光府に含有させる前記一般式(I)で表わされるアミノピフェニル化合物は例えば、下記一般式(IV)で表わされるハロピフェニル誘導体と下記一般式(V)で表わされるジフェニルアミノ誘導体又は下記一般式(VI)で表わされるアミノピフェニル誘導体と下記一般式(VII)で表わされるハロゲン誘導体を反応させることによって製造される。

$$(R^1)_k \qquad (R^2)_*$$

$$(\mathbb{R}^{4})_{\mathbb{R}} = (\mathbb{R}^{2})_{\mathbb{R}}$$

$$(\mathbb{R}^{4})_{\mathbb{R}} = (\mathbb{R}^{2})_{\mathbb{R}}$$

$$(\mathbb{R}^{4})_{\mathbb{R}} = (\mathbb{R}^{2})_{\mathbb{R}}$$

化合物No	R1	R²	R³	R*
1	11	H	11	11
2	19	н	4-Cll _a	4-CH ₃
3	អ	H	3-CH ₃	3-Ql ₂
4	11	11	2-C11 ₃	2-CI,
5	H	11	4-013	11
6	H	н	4-C ₂ H ₅	4-C ₂ H _s
7	H	11	4-C2115	H
8	Ħ	1\$	4-0CH ₃	4-0CH ₃
9	11	Ħ	3-00li ₃	3-0CH,
10	Н	H	2-0CH,	2-0CH,
11	11	R	4-0CH,	R
12	H	H	4-0CH	4-CH,
13	H	Н	4-0Cells	н
14	H	n	4-NMO2	u
15	Н	11	4-NEt	H
16	Ħ	H	4-ClaCalls	. 19
17	н	H	4-C2	i ii
18	4-CII,	Н	H	н
19	4-CH ₂	11	4-CH ₃	4-CH,
20	4-CII,	11	3-CH ₂	3-CII ₃
21	1-CIL	Ħ	2-CH ₃	2-CII,
22	4-CH ₂	H	4-Cil ₂	11
23	4-CH ₃	11	4-C211s	H
24	4-CII ₃	Н	4-C2115	4-C ₂ II ₈

(武中、R¹, R²及びk, Lは前記と同じ。 Xはハロゲンを汲わす。)

$$(R^{2})_{n}$$

$$(R^{2})_{n}$$

$$(V)$$

(式中、R², R⁴及びm,nは前記と同じ)

$$(R^1)_{k} \qquad (N^2)_{n} \qquad (VI)$$

(式中、R1,R1及びk,2は前記と同じ)

$$\chi = \frac{(\mathbb{R}^3)_{m} \times \mathbb{R}^{m}}{\chi}$$

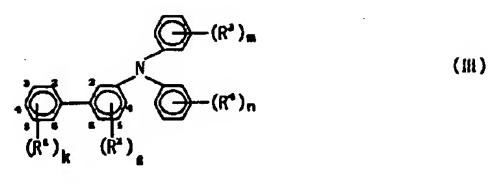
$$(VII)$$

(式中、R1,R1,X及びm,nは前記と同じ)

前記合成法で行られる一般式(II)及び一般式(III)で示されるアミノピフェニル化合物を以下に 例示する。

25	4-CII,	11	4-0Cl)	4-0CH,
26	4-CI,	11	3-0CH,	3-0CH,
27	4-CIL	н	4-0CII ₃	Н
28	4-CIL	H	4-0C ₆ 11 ₆	11
29	4-CIL	1 11	4-NEt ₂	и
30	4-CIL	11	3-C2 ·	H
31	4-C ₂ 11,	11	4-CIL	4-CH ₂
32	4-Calle	H	4-0C2115	4-0C2115
33	4-C2H6	11 11	3-CII,	H
34	4-C2H5	13	3-CII,	3-Cll ₃
35	3-CIL	H	4-CII ₃	4-CH ₃
36	3-CH,	l B	3-CII,	3-CII ₃
37	3-CI,	11	2-CH,	2-CII ₃
38	11	5-al,	H	Ħ
39	l H	5-CII,	4-CII ₃	4-CH,
40	Н	5-CI,	3-CI,	3-CII ₅
41	н	6-CH ₃	4-CII2	4-CII ₂
42	4-C2 Hs	11	Н	H
43	3-CH ₂	H	Н	Н
44	2-015	Ħ	H	H
45	2-CH ₃	н	4-CII ₂	4-Cil ₃
46	2-CI,	Н	3-CII,	3-CII _a
47	Н	11	2,4-(Cl ₃) ₂	· 11
48	н	н	3,4-CH ₂ O ₂	H
49	4-CII,	н	3,4-CH ₂ O ₂	Н
50	4-NMo ₂	H	H	H
51	4-NEta	i n	11	li li
52	4-Nita	H	4-Cli,	4-Cit _a
53	4-NEt2	11	3-CI,	3-CII3
54	4-NEtz	н	4-CH,	Ħ
55	4-NEt2	Н	4-C2	Н
56	4-0CH,	Н	н	11

57	4-0CH ₃	H	4-CH ₂	4-CIL
58	4-00ls	H	3-CH	3-CIL
59	4-0CH ₃	H	4-Cil	11
60	4~0CH,	H	4-001 ₃	4-0CH ₃
61	4-0Cl ₃	A	4-0CII3	H
62	4-0CH,	H	4-0CII ₂	4-CIL
63	4-0Cs 11s	Н	H	H
64	4-0C ₆ H ₆	11	4-CIL	4-Cil ₃
65	4-0Cells	H	3-CII,	3-CII,
66	4-0CeHs	Ħ	4-CH ₃	H
67	3-C4	Н	4-CH _a	4-CII,
68	3-C2	11	4-0CH	4-00ll ₃
69	3-0C ₆ H ₆	11	H	H
70	3-0C ₆ II ₅	11	4-C1),	4-Cli ₂
71	3-0C _E 11 ₅	11	3-al,	3-CH
72	11	H	4-nC2117	н
73	4-nC3117	H	H	H
74	4-11C3 112	11	4-Cil ₃	4-Cl),
75	4-SCH ₃	H	11	H
76	4-SCH,	H	4-CH ₃	4-Cil ₃
77	Н	В	4-SCH ₂	4-SCH,
78	11	H	4-SCH,	IJ
79	11	H	4-tC4H3	4-tC4lls
80	H	H	4-tC.II.	4-tCells
81	4-CH ₂ CaH ₅	H	Н	Н
82	4-CH, Calls	11	4-CH ₃	4-Cil
83	4-CH2Celle	ii	4-0CH ₂	H
84	4-Cil2Calls	11	3-CII.	3-CII,
85	4-CIL C. H.	11	2-CH ₂	2-Cli,
86	4-CH2 Calla	11	4-0CH ₂	4-0CH ₃
87	4-Cll, Calls	Н	3-0CH,	3-0CiL



化合物版	R	R²	R3	R*
88	· H	H	Н	H
89	H	11 ·	4-CII ₃	4-CII,
90	• 0	H	3-CH,	3-CII,
91	Ħ	18	2-CH,	2-CIIa
92	H	H	4-CII3	11
93	H	H	4-C2118	4-C2 IIs
94	н	11	4-Czlls	16
95	11	H	4-0CH,	4-0CII ₃
96	Ħ	n	3-0CH ₂	3-0CII,
97	H	H	2-001,	2-0011
98	H	H	4-0CH,	11
99	Ħ	H	4-0CH,	4-CIL
100	23	H	4-0C ₆ 11 ₅	11
101	Н	Ħ	4-NMe ₂	lE .
102	H	H	4-NEt.	18
103	Н	R	4-CIL Call	U
104	H	11	4-C2	H
105	4-CH	H	н	H
106	4-CH ₂	Н	4-CH ₂	4-CH ₃
107	4-CIL	H	3-Cil,	3-CH ₂
108	4-CH ₆	H	2-CIL	2-CII ₃
109	4-CIL	11	4-CH ₃	18
110	4-CH ₃	н	4-C2112	H
111	4-CH ₃	1 11	4-C211,	4-C2 H5
112	4-CIL	Н	4-0CH ₃	4-0Cl},

113	4-CH ₃	Н	3-0CH ₃	3-0CII.
114	4-CH ₂	1 11	4-0CII.	H
115	4-CH	H	4-0C ₆ H ₆	11
116	4-CII ₃	Н	4-NEt _a	н
117	4-CH ₃	H	3-C2	Ħ
118	4-C2115	11	4-CH ₃	4-CH ₃
119	4-C2116	H	4-0C, 11,	4-0C ₂ I ₂
120	4-C3 115	H	3-C11 ₃	Н
121	4-C211s	11	3-Cll ₃	3CH ₃
122	3-CII,	H	4~CH ₃	4-CI5
123	3-C11,	H	3-CH,	` 3-Cli₃
124	3-CH ₃	Ħ	2-CH ₂	2-Cil
125	11	4-CH,	H	II
126	11	1-CI3	4-CII ₅	4-Cil ₃
127	Н	4-CI ₃	3-CII ₅	3-CII₃
128	i ii	2-CIL	4-CH ₃	4-Cil ₃
129	4-C2115	H	. 11	. ห
130	3-сн,	H	H	Н
131	2-CH.	H	Н	H
132	2-CIL	· 11	4-CH ₃	4-CIL
133	2-CIL	H	3-CH ₃	3-CII.
134	Н	H	2,4-(Cli,)2	H
135	H	H	3,4-Cil ₂ 0 ₂	H
136	4-CH ₃	H	3,4-CH _z O _z	H
137	4-NMe ₂	H	R	H
138	4-NEt ₂	H	H	H
139	4-NEt ₂	Н	4-Cl ₂	4-CH,
140	4-NEta	H	3CH ₂	3-CII,
141	4-NEt ₂	H	4-Cil.	H
142	4-NEt ₂	Н	4-C2	Н
143	4-0CIL	11	B	11
144	4-0CH ₃	H	4-CII,	4-C1,

		************		1 0 00
145	4-00lb	11	3-CH ₃	3-CII ₃
146	4-0Cll ₃	fs	4-CII ₃	11
147	4-0CIb	H	4-0CH ₃	4-0CH ₂
148	4-0CH	11	4-001s	· 11
149	4-0CH ₃	H.	4-0CII ₃	1-CIL
150	4-0Calls	H	Н	11
151	4-0Cells	H	4-CIL	4-Cil ₃
152	4-0Celle	Н	3-CIL	3-CIL
153	4-0CeHs	H	4-CII.	H
154	3-C2	H	4-CH,	4-CI ₃
155	3-CQ	H	4-0CH,	4-0Cl ₃
156	3-0Celle	H	H	. 11
157	3-0C _s 11 _s	Ħ	4-CII ₃	4-Cl ₃
158	3-0Cells	Ħ	3-al,	3-Cia
159	H	Н	4-nC31h	H
160	4-nC2117	H	11	11
161	4-nCall	H	4-CH ₃	1-CI,
162	4-SCIL	Н	H	11
163	4-SCII	H	4-CIL	4-CII3
164	H	H	4-SCII3	4-SCII ₃
165	H	11	4-SCII ₃	FL
166	Н	H	4-tC4H	4-tCalls
167	В	H	4-tCalls	4-tC4lls
168	4-CH2Calls	н	H	II.
169	4-CH ₂ C ₄ H ₅]	4-C11 ₃	4-Cli_
170	4-CH ₂ C ₆ H ₅	11	4-0CIL	H
171	4-CH2Calis	H	3-Cil,	3-લા,
172	4-CH2 Calls	Н	2-CH,	2-CII.
173	4-012C.11.	н	4-0CH ₃	4-0CH
174	4-Cli_Calls	1 0	3-001	3-0CH ₂ .

本発明の態光体は、上記のようなアミノビフェニル化合物の1種又は2種以上を感光層2(2',2",2" 又は2"")に含有させたものであるが、これらアミノビフェニル化合物の応用の仕方によって第1回、第2回、第3回、第4回あるいは第5回に示したごとくに用いることができる。

第2回における感光体は、薄配性支持体1上に電荷発生物質3をアミノピフェニル化合物と結合剤とからなる電荷搬送媒体4の中に分散せしめた感

ビフェニル化合物を含有する電荷搬送層4との税 層からなる感光層2°が設けられたものである。 この感光体では、電荷搬送層4を透過した光が電 荷発生層5に到達し、その領域で電荷担体の発生 が起こり、一方、電荷搬送層4は電荷担体の注入 を受け、その搬送を行なうもので、光波波に必要 な電荷担体の発生は、電荷発生物質3で行なわれ、 また電荷担体の搬送は、電荷搬送層4(主としてア ミノビフェニル化合物が働く)で行なわれる。こ うした機構は第2図に示した感光体においてした 説明と関係である。

第4図における感光体は第3図の電荷発生暦5と アミノピフェニル化合物を含有する電荷搬送暦4 の積層順を逆にしたものであり、その電荷担体の 発生及び搬送の機構は上記の説明と同様にできる。 この場合機械的強度を考慮し第5図の様に電荷発 生暦5の上に保護暦6を設けることもできる。

実際に本発明感光体を作製するには、第1図に 示した感光体であれば、結合剤を溶かした溶液に アミノビフェニル化合物の1種又は2種以上を溶解

光暦2'が設けられたものである。ここでのアミノ ピフェニル化合物は結合剂(又は、結合剂及び可 塑剤)とともに低荷盥送媒体を形成し、一方、電 荷 発 生 物 質 3 (無 機 又 は 有 機 麒 料 の よ う な 電 荷 発 生 物質)が電荷担体を発生する。この場合、電荷搬 送媒体4は主として電荷発生物質3が発生する電荷 担体を受入れ、これを搬送する作用を担当してい る。そして、この趙光体にあっては唯荷発生物質 とアミノビフェニル化合物とが、たがいに、主と して可視領域において吸収波長領域が重ならない というのが基本的条件である。これは、電荷発生 物質3に電荷担体を効率よく発生させるためには 電荷発生物質表面まで、光を透過させる必要があ るからである。一般式(1)で汲わされるアミノビ フェニル化合物は可視傾城にほとんど吸収がなく、 一般に可視領域の光線を吸収し、電荷担体を発生 する電荷発生物質3と組合わせた場合、特に有効 に電荷搬送物質として働くのがその特長である。

第3回における感光体は、導電性支持体1上に電荷発生物質3を主体とする電荷発生型5と、アミノ

し、更にこれに増越換料を加えた液をつくり、これを導程性支持体1上に飲布し乾燥して感光層2を 形成すればよい。

磁光型の厚さは3~50mm、好ましくは5~20mmが適 当である。磁光別2に占めるアミノビフェニル化 合物の景は30~70重量8、好ましくは約50重量8で あり、また、機光層2に占める増級染料の量は0.1 ~5 重量%、好ましくは0.5~3 重量%である。 均燃染 料としては、ブリリアントグリーン、ピクトリア ブルーB、メチルパイオレット、クリスタルパイ オレット、アシッドパイオレット68のようなトリ アリールメタン染料、ローダミンB、ローダミン6 G、ローダミンGエキストラ、エオシンS、エリト ロシン、ローズベンガル、フルオレセインのよう なキサンテン染料、メチレンブルーのようなチア ジン染料、シアニンのようなシアニン染料、2,6-ジフェニル-4-(N,N-ジメチルアミノフェニル)チ アピリリウムパークロレート、ペンソピリリウム 塩(特公四48-25658号公報に記載)などのピリリウ ム染料などが挙げられる。なお、これらの均級染

料は単独で用いられても2種以上が併用されてもよい。

また、第2図に示した必光体を作製するには、1 種又は2種以上のアミノビフェニル化合物と結合 剤とを溶解した溶液に鑑荷発生物質3の微粒子を 分散せしめ、これを導電性支持体1上に強布し乾 焼して磁光圏2′を形成すればよい。

脳光 間 2'の 厚 さ は 3~50 m 、 好ましくは 5~20 m が 適当である。 態光 間 2'に占める アミノビフェニル 化合物の 最は 10~95 重量 5、 好ましくは 30~90 重量 5 であり、また、 磁光 間 2'に占める 他 背発生物 質 3 の 量は 0.1~50 重量 5、 好ましくは 1~20 重量 5 である。 電荷発生物質 3 としては、 例えばセレン、セレンテルル、 硫化カドミウム、 セレン・テルル、 硫化カドミウム、 破化カドミウムーセレン、 α-シリコンなどの 無機 顧料、 有機 顧料 としては 例えば シーアイピグメントブルー 25(カラーインデックス CI 21180)、 シーアイピグメントレッド 41(CI 21200)、シーアイアシッドレッド 52(CI 45100)、シーアイペーシックレッド 3(CI45210)、カルパゾール 骨格を 右する アゾ 紅料 (特別 町 53~

物質は単独で用いられても2種以上が作用されてもよい。

更に、第3回に示した超光体は作製するには、 羽電性支持体1以上に配荷発生物質を真空蒸着するか或いは、電荷発生物質の微粒子3を必要によって結合剤を溶解した適当な溶媒中に分散した分 彼被を塗布し乾燥するかして、更に必要であれば バフ研密などの方法によって表面仕上げ、膜厚調整などを行って電荷発生層5を形成し、この上に1 種又は2種以上のアミノピフェニル化合物と結合 剤とを溶解した溶液を塗布し乾燥して電荷発生層5の 利とを溶解した溶液を塗布し乾燥して電荷発生層5の 形成すればよい。なお、ここで電荷発生層5の 形成に用いられる電荷発生物質は前記の磁光層2′ の説明においてしたのと同じものである。

配荷発生用5の厚さは5m以下、好ましくは2m以下であり、配荷販送用4の厚さは3~50m、好ましくは5~20mが適当である。低荷発生用5が低荷発生用物質の微粒子3を結合剤中に分散させたタイプのものにあっては、電荷発生物質の微粒子3の電荷発生用5に占める剤合は10~95重量%、好ま

95033号公報に記載)、ジスチリルベンゼン竹格を 有するアン顛科(特間昭53-133445号公根)、トリ フェニルアミン骨格を有するアゾ顔料(特別昭53-132347号公報に記収)、ジベンゾチオフェン骨格 を有するアン薊料(特開町54-21728号公報に記収)、 オキサジアソール骨格を有するアソ飼料(特別的 54-12742号公银に記載)、フルオレノン骨格を有 するアン麒科(特開昭54-22834号公報に記報)、ビ ススチルペン骨格を有するアゾ顔料(特開昭54-17733号公報に記載)、ジスチリルオキサジアゾー ル骨格を有するアゾ顔料(特開昭54-2129号公報 に記収)、ジスチリルカルパソール
引格を有する アソ順科(特開昭54-14967号公根に記収)などのア ソ**貞科、例えばシーアイピグメントブルー16(CI** 74100)などのフタロシアニン系戲料、例えばシー アイパットブラウン5(CI 73410)、シーアイパッ トダイ(CI 73030)などのインジゴ系飼料、アルゴ スカーレットB(パイエル社製)、インダンスレン スカーレットR(パイエル社製)などのペリレン系 顱科などが挙げられる。なお、これらの世荷発生

しくは50-90重量を程度である。また、電荷搬送層 4に占める化合物の量は10~95組量が、好ましくは 30~90重量8である。第4回に示した破光体を作成 するには、導電性支持体1上にアミノビフェニル 化合物と結合剤とを溶解した溶液を強布し、乾燥 して電荷搬送暦4を形成したのち、この電荷搬送 層の上に電荷発生的物質の微粒子を、必要によっ て結合剤を溶解した溶媒中に分散した分散被をス プレー強工等の方法で放布乾燥して電荷発生内5 を形成すればよい。電荷発生圏あるいは電荷搬送 間の量比は第3図で説明した内容と同様である。 このようにして得られた感光体の電荷発生層5の 上に更に適当な樹脂溶液をスプレー強工等の方法 により保護層6を形成することにより第5図に示す 感光体を作成できる。ここで用いる樹脂としては、 後記する結合剤が使用できる。

なお、これらのいずれの感光体製造においては 導電性支持体1に、アルミニウムなどの金属板又 は金属館、アルミニウムなどの金属を蒸消したプ ラスチックフィルム、あるいは導性処理を施した 紙などが用いられる。また、結合剤としては、ポリアミド、ポリウレタン、ポリエステル、エポ 知 分 が 別 か トン、ポリカーボネートなど、ポリケトン、ポリカーボネートない、ポリアクリルアミド の が いっかい か けっ N・ビニルカル バソール、ポリアクリルアミド のような ビニル 放 合体な が 間 い られて で が な が で か つ 接着 性 の あ る 樹 所 は な で な で か で も な が れ な が の か に か で を る い な が い に で 要 に よ り 可 型 剤 に 加 た の で か こ が 子 ル フタレートなどが 例示できる。

更に、以上のようにして得られる感光体には、 夢能性支持体と感光剤の間に、必要に応じて接着 耐又はパリヤ層を設けることができる。これらの 耐に用いられる材料としては、ポリアミド、ニト ロセルロース、酸化アルミニウムなどであり、ま た膜厚は1m以下が好ましい。

本発明の感光体を用いて複写を行なうには、感 光面に帯電、舞光を施した後、現像を行ない、必 要によって、紙などへ転写を行なう。本発明の感

(%)はCaellanNとして下記の通りであった。

	C	H	N
突湖值	89.45	6.62	3.98
計算值	89.36	6.63	4.01

(化合物 № 89の合成例)

3-アミノピフェニル4.00g、p-ヨードトルエン15.46g、炭酸カリウム9.80g及び制粉0.10gをニトロベンゼン100gに採り窒素気液下、エステル管で共沸脱水しながら210~212℃で16時間撹拌した。室温まで冷却した後セライトを用いて遮過し、遮液を滅圧下でニトロベンゼンを留去した。ついで残査をトルエンで抽出、水洗し、有機層を硫酸マグネシウムで乾燥をおこない、減圧濃縮して暗褐色の油状物を得た。これをシリカゲルカラム処理(溶離液:トルエン-n-ヘキサン混合溶媒)を2回おこない、エタノールついでn-ヘキサンから再精品して、無色プリズム結晶のN.N-ビス(4-メチルフェニル)-[1,1'-ピフェニル]-3-アミン4.58g(収本55.4g)を得た。 触点は105.0~105.7℃であった。元素分析値(g)はCasHzaNとして下記の通りであっ

光体は略度が高く、また可能性に富むなどの優れ た利点を有している。

(実施例)

(化合物 h 2の合成例)

以下、実施例により本発明を説明する。なお、下記実施例において部はすべて重量部である。

2-アミノビフェニル8.00g、p-ヨードトルエン30.94g、炭酸カリウム19.61g及び絹粉0.20gをニトロペンゼン160gに採り窓栽気液下、エステル智で共沸脱水しながら211℃で26時間撹拌した。室温まで冷却した後セライトを用いて濾過し、遮蔽を滅圧下でニトロペンゼンを引去した。ついで残変をトルエンで抽出、水洗し、有機耐を破酸マグネシウムで乾燥をおこない、滅圧濃縮して吹弾をおこない、滅圧濃縮して吹弾をおこない、滅圧濃縮して吹弾をおこない、減圧濃縮して吹弾をおこない、減圧濃縮して吹弾をおい、水洗し、有機減・カラム処理(溶離液・トルエン-n-ヘキサン混合溶媒)を2回おこないエタノール-静酸混合溶媒から再輸品して、無色柱状結晶のN,N-ピス(4-メチルフェニル)-[1.1′-ピフェニル]-2-アミン7.11g(収率43.0%)を得た。強点は136.0-136.5℃であった。元減分析値

た.

	C	H	N
実 湖 值	89.41	6.48	3.95
計算觀	89.36	6.63	4.01

实施例1

電荷発生物質としてダイアンブルー(シーアイピグメントブルー25、CI 21180)76部、ポリエステル樹脂(パイロン200、榊東洋紡骸製)の28テトラヒドロフラン溶液1260部およびテトラヒドロフラン3700部をポールミル中で粉砕混合し、得られた分散被をアルミニウム蒸着したポリエステルベースよりなる導電性支持体のアルミニウム値上にドクターブレードを用いて強布し、自然乾燥して厚さ約1μmの電荷発生層を形成した。

一方、電荷散送物質としては No 2のアミノビフェニル化合物 2部、ポリカーポネート協順(パンライトK1300、網 各人製) 2部およびテトラヒドロフラン16部を混合溶解して溶液とした後、これを前配電荷発生圏上にドクターブレードを用いて塗布し、80℃で2分間、ついで120℃で5分間乾燥して、

厚さ約20mの電荷搬送間を形成せしめて略光体 Ma 1を作成した。

奖施例2~27

電荷発生物質および電荷搬送物質(アミノビフェニル化合物)を製-1に示したものに代えた以外は実施例1とまったく同様にして越光体No.2-27を作成した。

観荷観送物質 (アミノビフェニル 合物配)	2	2	
章 格 美	O-1940C OH 1970 OCH 110 COMH-O	O-11400 OH CB CB HD COMH-O	(\$ \$ 7 1-1 \$ 17)
過光体形		7	ಣ

2	8	8
O-HVAC GH HO CONH-O-N-II-O-N-II-O-N-II-O-N-II-O-N-II-O-N-II-O-N-II-O-N-III-II-O-N-III-III	CALINOC OH O ONN-W-O CONTH-O C	CH, O-HNOC OH CH, O-HNOC OH CH, O-N-H-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-OM, N CH, O-HNOC OH N N CH, O-OM-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-OM, N CH, O-OM-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-M-O-
4	വ	ø

2	σι α	တ ဆ	88	88	20	20
4 型網フタロシアニン	O-HNOC OH OCH, II,CO HO CONIH—O	O HINDE OH CE HO CONTINUE OF THE CONTINUE OF T	р — 1	P-2	. T - d	P – 2
7	ω	6	10	11	12	13

感光体No	超荷発生物質	程 荷 散 送 物 質 (アミノビフェニル 化合物No)
1 4	P - 1	6
1 5	P - 2	6
1 6	P - 1	2 2
1 7	P - 2	2 2
18	P - 1	2 5
1 9	P - 2	2 5
2 0	P - 1	7 0
2 1	P - 2	7 0
2 2	P - 1	9 5
2 3	P - 2	9 5
2 4	P - 1	1 1 1
2 5	P - 2	111
2 6	P - 1	8 8
2 7	P - 2	8 8

実施例28 厚さ約300μmのアルミニウム板上にセレンを厚

部にテトラヒドロフラン158部を加えた混合物をポールミル中で粉砕、混合した後、これに№89のアミノピフェニル化合物12部、ポリエステル樹脂(デュポン社製ポリエステルアドヒーシブ49000)18部を加えて、さらに混合して掛た酸光層形成被を、アルミニウム蒸着ポリエステルフィルム上にドクターブレードを用いて塗布し、100℃で30分間乾燥して厚さ約16㎞の感光層を形成せしめて、本発町の感光体No.30を作成した。

夹施例31

アルミニウム蒸着したポリエステルフィルム結板上に、実施例8で用いた電荷搬送問盤工被を実施例1と同様にしてブレード強工し、ついで乾燥して厚さ約20㎞の電荷搬送網を形成した。ピスアソ顔料(P-2)13.5部、ポリピニルブチラール(商品名: XYHLユニオンカーバイトプラスチック社製)5.4部、THF 680部及びエチルセロソルブ1020部をポールミル中で粉砕混合した後、エチルセロソルブ1700部を加え提拌混合して電荷発生耐用強工液を得た。この強工液を上記の電荷搬送層の上にスプ

さ約1mに真空蒸着して電荷発生剤を形成せしめた。次いで№89のアミノピフェニル化合物2部、ポリエステル樹脂(デュポン社製ポリエステルアドヒーシブ49000)3部およびテトラヒドロフラン45部を混合、溶解して電荷搬送剤形成被をつくり、これを上記の電荷発生剤(セレン蒸着剤)上にドクターブレードを用いて強布し、自然乾燥した後、減圧下で乾燥して厚さ約10mの電荷搬送剤を形成せしめて、本発明の磁光体No.28を料た。

实施例29

セレンの代りにペリレン系類料

を用いて電荷発生層(但し、厚さは約0.6μm)を形成した、かつ電荷搬送物質としてアミノピフェニル化合物 No.2を用いた以外は实施例28とまったく同様にして砲光体No.29を作成した。

実施例30

ダイアンブルー(突施例1で用いたものと同じ)1

レー強工し、100℃で10分間乾燥して厚さ約0.2mの電荷発生層を形成した。さらにこの電荷発生層の上にポリアミド樹脂(商品名:CN-8000、東レ製)のメタノール/n-ブタノール溶液をスプレー強工し120℃で30分間乾燥して厚さ約0.5mの保護層を形成せしめて感光体No.31を作成した。

かくしてつくられた感光体 No.1~31について、市 版の静電複写紙試験装置 (KK川口電機製作所製SP428型)を用いて-6KV又は+6KVのコロナ放電を20秒間行って帯電せしめた後、20秒間暗所に放置し、その時の表面電位 Vpo (ボルト)を測定し、ついでタングステンランプ光を、感光体表面の照度が4.5ルックスになるよう照射してその表面電位がVpoの1/2になる迄の時間(秒)を求め、露光量E1/2(ルックス・秒)を算出した。その結果を表-2に示す。

また、以上の各感光体を市販の電子写真複写機 を用して帯電せしめた後、原図を介して光照射を 行って静電潜像を形成せしめ、乾式現像剤を用い て現像し、得られた画像(トナー画像)を普通紙上 に静電転写し、定着したところ、鮮明な転写画像 が待られた。現像剤として湿式現像剤を用いた場合も同様に鮮明な転写関像が得られた。

表 - 2

	Voc	E 1/2
愁光体 ho	V p o (ポルト)	
ļ		(ルックス・秒)
	- 1106 - 1206	1.38
2	-1306	1.32
3	-1204	1.02
4	-1008	1.24
5	<u>-1323</u>	1.08
6	- 987	1.15
7	- 942	1.35
8	-1252	1.38
9	<u>-1326</u>	1.29
1.0	- 1222	1.04
1 1	- 1332	1.19
1 2	- 1344	1.06
1 3	-1358	1.10
1 4	-1351	1.07
1 5	- 1292	1.17
1 6	<u> </u>	1.05
1 7	- 1346	1.12
18	-1214	0.98
1 9	-1117	1.02
2 0	- 1153	0.92
2 1	-1066	1.99
2 2	-1206	1.02
2 3	-1193	1.06
2 4	- 1294	1.08
2 5	- 1344	1.21
2 5 2 6 2 7	-1310	1.09
	-1381 -1021	1.09
2 8 2 9 3 0	<u> </u>	1.42
2 9	- 962	1.45
3 0	+1186	1.42 1.45 1.39
3 1	+ 1362	1.10

〔効 果〕

本発明の感光体は感光特性に優れていることは 勿論のこと、熱や機械的の衝撃に対する強度が大 で、しかも安価に観過することができる。

4. 図面の簡単な説明

第1図~第5図は本発明にかかわる電子写真感光 体の厚さ方向に拡大した断面図である。

1…游位性支持体

2,2',2",2",2""… 修光層

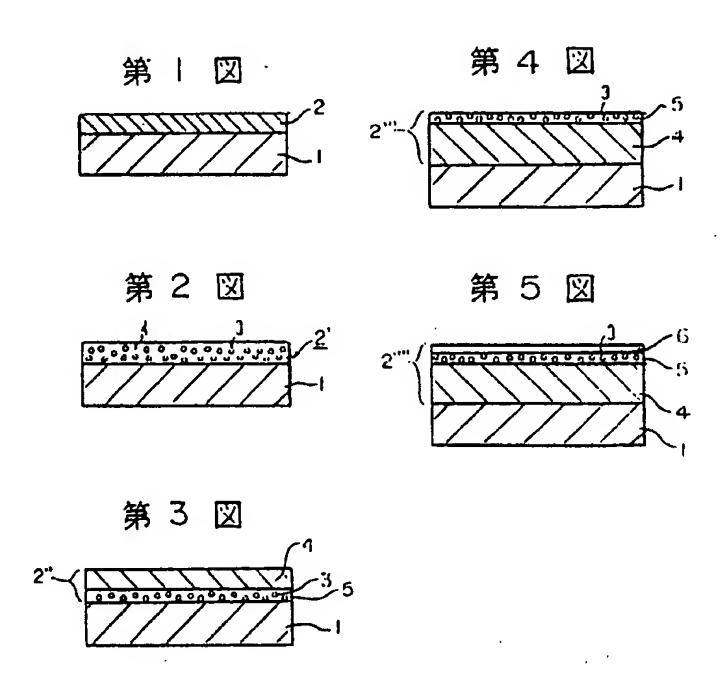
3… 置荷発生物質

4… 電荷搬送媒体又は電荷搬送層

5…電荷発生層

6…保護層

特許出願人 株式会社 リ コ ー 代 理 人 弁 理 士 池 浦 敏 明 (ほか1名)



This Page is Inserted by IFW Indexing and Scanning Operations and is not part of the Official Record

BEST AVAILABLE IMAGES

Defective images within this document are accurate representations of the original documents submitted by the applicant.

Defects in the images include but are not limited to the items checked:		
☐ BLACK BORDERS		
☐ IMAGE CUT OFF AT TOP, BOTTOM OR SIDES		
FADED TEXT OR DRAWING		
BLURRED OR ILLEGIBLE TEXT OR DRAWING		
☐ SKEWED/SLANTED IMAGES		
☐ COLOR OR BLACK AND WHITE PHOTOGRAPHS		
GRAY SCALE DOCUMENTS		
☐ LINES OR MARKS ON ORIGINAL DOCUMENT		
☐ REFERENCE(S) OR EXHIBIT(S) SUBMITTED ARE POOR QUALITY		

IMAGES ARE BEST AVAILABLE COPY.

OTHER:

As rescanning these documents will not correct the image problems checked, please do not report these problems to the IFW Image Problem Mailbox.